

博物館だより

リイシリ 375 号



☎ 0163-85-1411

✉ rishiritownmuseum@town.rishiri.hokkaido.jp

〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志本町 136

7/28 土ほじりナイト

前号のリイシリでも紹介した、7/28（火）開催予定の「土ほじりナイトー落ち葉の下のミクロの世界をのぞいてみようー」は引き続き参加者を募集しています。ご興味ある方はぜひともお申込みください。今号では、大平敦子講師による本事業の紹介を掲載します。

私たちが森の中を歩くとき、目に入るのは木や花、鳥などの大きな生きものが中心かもしれませんが、しかし、足もとの落ち葉や土の中には、それ以上にたくさんの小さな生きものが暮らしています。

土の中には、トビムシやダニ、カニムシ、ヤスデなど、さまざまな土壌動物が生息しています。これらの生きものは落ち葉や枯れ木を細かく砕いたり、微生物を食べたりすることで、森の物質循環を支える重要な役割を担っています。普段は目にする機会が少ないためあまり知られていませんが、土壌動物の多様性は非

7・8月の開館カレンダー

7/6、8/17 は休館日となります。また、夏の開館期間のため、7/13、7/21、7/27、8/3、8/10、8/12、8/24、8/31 は臨時開館日となります。

7月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4						1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
							30	31					

○ 祝日・休日
 〰 休館日
 ◻ 臨時開館
 ◻ 臨時休館

常に高く、一握りの土の中にも数多くの種類が見つかります。

今回の観察会では、実際に落ち葉や土を採取し、ルーペや顕微鏡を使って土壌動物を観察します。肉眼では見えにくい小さな生きものたちの姿や行動を観察しながら、土壌生態系の面白さや生物多様性について紹介します。

また、私たちは、世界でも珍しい「発光するトビムシ」の研究を進めています。発光トビムシは近年研究が始まったばかりで、なぜ光るのか、どのような暮らしをしているのかなど、まだ多くの謎が残されています。当日は、発光トビムシの発見や研究の経緯、これまでに分かってきたこと、そして今後解明が期待される研究課題についても紹介します。

土の中の小さな生きものたちは、私たちの身近な自然を支える大切な存在です。この機会に、普段は見過ぎてしまう足もとの世界と一緒にのぞいてみませんか。

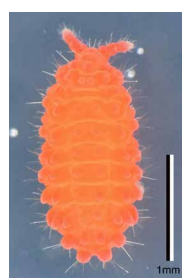
【事業名】土ほじりナイトー落ち葉

の下のミクロの世界をのぞいてみようー【日時】7/28（火）19：00～20：30。【場所】利

尻町立博物館ロビー。【講師】大平敦子講師（千葉科学大学）・中森泰三教授（横浜国立大学）。【内容】講師のお二人に土の中の生き物の面白さやその多様性について30分ほど講演いただいたあと、博物館周辺で採集した土壌動物を観察します。【持ち物】筆記用具、割りばし。【申込】7/24（金）まで。博物館にメールまたはお電話にて、(1)お名前、(2)前・当日つながる電話番号をお知らせください。定員は10名程度を予定しています。【共催】利尻町立博物館・利尻島調査研究事業。

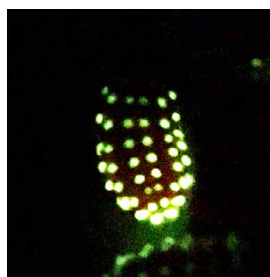
8/1 宗谷管内巡回展

リイシリ 373 号の編集後記で紹介した「宗谷管内学芸職員連絡協議会」が主催する、令和8年度宗谷管内巡回展が当館にも巡回してきます。昨年度、北海道を含めた日本各地でクマ被害が目立っていたことから、今年度のテーマは「ヒグマ」となりました。ヒグマは利尻には生息していませんが、1912年と2018年に上陸した記録があります。今回の展示では、利尻への2度の上陸を含めた宗谷・天塩におけるヒグマの生態・歴史・人とのかわりなどについて、当館が所蔵する資料と合わせて紹介いたします。



◀ 発光器官を持つザウテルアカイボトビムシ（中森泰三教授撮影）

暗闇の中で緑に発光している様子（中森泰三教授撮影）▶



りしりよもやまばなし 利尻四方山話

その 7 アカギカメムシ



神居で撮影されたアカギカメムシ
(塩津紀彦氏撮影)

昨年の 8 月末ごろ、御崎の方から「見慣れないカメムシがいたので名前を教えてください」と写真が届きました。写真を確認したところ、なんと沖縄などの南西諸島に分布するアカギカメムシで、その後神居からも追加の目撃情報が届きました。本種は長距離を飛翔することが知られていて、温暖化に伴い分布を広げており、最近では山口県にも定着しているようです。2020 年には生きた個体が道南を中心に合計 34 個体見つかるなど、近年は北海道でも目撃例が増えています。ただし、本種は寒さに弱く、餌となるアカメガシワの木も生えていないため、道内では越冬・定着できないと思われます。利尻では 2 個体が目撃されたものの、どちらも写真のみで標本は手に入っていません。今年の夏の終わり頃に写真のようなオレンジ色のカメムシを見つけた方は、ぜひ捕まえて博物館までお持ちください。

【事業名】令和 8 年度宗谷管内巡回展「宗谷と天塩のヒグマ」【場所】利尻町立博物館。【期間】8/1 (土) ~ 8/31 (月) の 9:00 ~ 17:00 (最終入館 16:30)。8/17 (月) は休館日となりますのでご注意ください。【主催】宗谷管内学芸職員連絡協議会、稚内市、礼文町、利尻町、利尻富士町、枝幸町、天塩町各教育委員会。【後援】稚内開発建設部。



掲示板

傷病鳥 ▼アオバト、6/30、杓形神居。▽貴重なサンプルのご提供、

まことにありがとうございます。いただいたサンプルは今後標本化の予定です。

リイシリの購読・閲覧 博物館のホームページにて、最新号のほか過去 2 年分のバックナンバーを公開中。発行時に配信する「発行お知らせメール」もありますので、ぜひご利用ください。ネット環境が無い方、メールでの受け取りが出来ない方の場合、利尻町内の方には無料でお配りしているほか、町外の方には郵送料のご負担をいただければ定期購読も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

編集後記 2026 年 6 月 2 日に利尻山の南斜面にあるチシマザクラの自生地に開花状況の調査に行きました。この自生地は 1933 年に仙法志の住民の方が登山をしている過程で発見したもので、1967 年に専門家による調査を経て 1968 年に天然記念物に指定されたものです。博物館では毎年、開花状況などを確認しています。自生地にはチシマザクラのほかミヤマザクラも生息しており、満開ではなかったものの、今年もこちらのサクラも美しい花を咲かせて



いました。2 種のサクラはとてよく似た形をしていますが、それぞれの特徴は佐藤ほか (1995)* に掲載されているので、興味がある方はぜひご覧ください。調査では大空沢を登り、チシマザサの生い茂る急斜面を藪漕ぎしながら進むので、たどり着くのはたいへんですが、咲いているサクラを見ると疲れが吹き飛ばような気がします。特別保護地区や国有林内にあり、入林届の提出が必要であるなど、実際に自生地に訪れるのは難しいかもしれませんが、来年のサクラの時期にこの自生地のことを思い出していただけると嬉しいのです。(富岡)



◀宗谷遺産アーカイブズ上の利尻島のチシマザクラ自生地のページに飛びます。

*佐藤創・塚田晴朗・棟方清志・藤本恵二・佐藤孝夫・佐藤雅彦・小杉和樹, 1995. 利尻島のチシマザクラ群落再発見. 利尻研究, (14): 7-9.

富永が大学生の時、青森県でアカギカメムシを捕まえた際は、地域の新聞社から取材されるなど大盛り上がりでした。